



アセトン血性嘔吐症



<アセトン血性嘔吐症とは?>

正式には「アセトン血性嘔吐症」と呼びます。「自家中毒」と呼ぶ場合もあります。食中毒とは名前が似ていますが、全く違うものですので、勘違いしないで下さい。アセトン血性嘔吐症は病名というよりも、病態を言い表わす言葉です。



<どうしておこるの?>

嘔吐下痢症(はきくだし)、高熱、疲労、ストレスなどが誘因になって、飲食が十分にできず、からだの中から水分と糖分が枯渇してしまい、飢餓になってしまった状態です。



<検査>

尿中ケトン体が陽性になります。通常、人間のからだは炭水化物を分解してエネルギーをつくりませんが、アセトン血性嘔吐症では飢餓と同じ状態なので、脂肪や蛋白質を無理矢理に分解して、ケトン体がからだに溜まってしまい、尿中に出てきます。



<治療>

ケトン体がからだに溜まっていると吐き気が強くて食べられません。こうなると点滴で水分を補った方が楽です。水分とブドウ糖の点滴(200-500ml)をすると元気になります。点滴には2-3時間かかります。早めに連れて来て下さい。



<治るの?>

何度も繰り返すお子さんがいますが、10歳くらいになると自然と治ります。



<ACTH-ADH 分泌異常症>

#まれに ACTH-ADH 分泌異常症という、ちょっとやっかいな病気のこともあります。あまりにもひどく吐く場合には、ご相談ください